

地域別意見交換会開催報告

1. 開催概要

目的：事業者や市民に直接対面し、市内の商業振興、商店街の活性化に向けて、具体的意見や要望を聞き、計画策定に資する。

開催日時等：

	北部	中部	南部
開催日時	10月4日（水） 14:30～16:30	10月3日（火） 14:30～16:30	10月4日（水） 10:00～12:00
会場	北部文化・スポーツ・子育てセンター Room2	シリウス 生涯学習センター 610 大会議室	IKOZA 渋谷学習センター 307 会議室
参加人数	8名	14名	11名
実施方法	意見交換形式	ワークショップ形式	ワークショップ形式

全体テーマ：事業者・商店街としてありたい姿・なりたい姿

3つのテーマについてディスカッションし、グループでとりまとめを行った。

テーマ1：事業・商店街でうまくいっていること、
困っていることや解決しなければいけないこと

テーマ2：事業・商店街のありたい姿・なりたい姿

テーマ3：ありたい姿・なりたい姿の実現に向けて必要なこと

- ① 自分達で取り組むこと
- ② 市にやってもらいたいこと（要望）

2. 実施内容

北部・中部・南部に共通する特徴

①北部・中部・南部に共通する意見

●商店街を取り巻く環境

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、来街者の減少が課題。
- ・店主の高齢化や事業承継が課題。
- ・コロナ禍の影響もあるが、事業者間だけでなく、市や住民など、多様な主体との交流機会を望んでいる。

●商店会活動

- ・会員数の減少や店主の高齢化などにより、商店会活動の担い手は十分ではなく、空き店舗も減少していない。
- ・組織内のつながりは強い傾向が見られ、イベント等も実施している。
- ・交通の利便性は高いが、まちの独自性といった点では弱い面もある中、各商店会がイベント等を開催し魅力づくりに励んでいる。

●今後の展開

- ・多様な主体との交流機会を増やし、賑わいづくりに向けた取り組みを推進していきたい。

②各地域の主な意見

	北部	中部	南部
課題	- 子どもへの訴求力が弱い - 駐車場・駐輪場の不足 - 空き店舗の増加 - 大企業がなく、日中（夜も）街に人がいない - 商店会会長等の高齢化 - 回遊性がない - 独自性を持った資源・魅力の不足	- 空き店舗対策が必要 - 商店街への理解不足、チェーン店の未加入 - 大和駅南北の往来が困難 - イベント等の担い手不足 - 事業所が減少 - 高齢化・事業承継 - 若手主体の事業実施が困難	- 区画整理事業後のまちのビジョンが見えない - 東西に分かれ一体感がない - 核となる商業施設がない、他駅に人が流れている - 古い商店街組織体質から抜け切れていない - 夜間の街並みが暗い
良い点	- イベントの開催が知名度向上や集客につながっている - 創業者の増加 - 生活の利便性が高い - マンションが増えて住民も増加 - 個性的な店舗が生き残っている - SNS・YouTuberによる情報発信	- 阿波踊り等、集客力のあるイベントの実施 - マンション増加による消費者や子どもの増加 - 銀行が多い - 外国人人材の増加 - 若手の集まりがある商店街がある	- 商店会にまとまりがある - 桜ヶ丘駅前の朝市 - イベントに集客力がある - 久田の野菜と地元飲食店での活用 - 新しいまち、街並みがきれい
方向性	交流、出会いの場づくりを推進	- 交流機会の増加により事業者間の取引や連携を促進 - 商店街のネットワークづくり - 阿波おどり、市民祭り等のイベントを活用した賑わい創出 - 個店の魅力発信	- 若者がチャレンジできるまち - 来街者が増え賑わいのあるまち - 歴史を生かしたまちづくり - 自治会や関連団体との連携 - PR・情報発信
施策二ーズ	- まちの活気を高める - 独自性のある事業（イベント等） - PRを子どもから高齢者まで届ける	- 商店会どっとこむの充実 - 安全な商店街づくり - 市と事業者の連携 - 世代間交流や若手の活躍の場作り - 消費者を創出する大規模事業所の誘致	- まちのビジョン、ブランドデザインの打出しが必要 - 東西をつなぐ連絡路の整備 - モデル商店街への支援 - 外国人居住者との交流 - 新規店舗の誘致 - 農業との連携支援

